

2014年度日本数学会賞建部賢弘賞受賞者の横顔

2014年度の日本数学会賞建部賢弘賞の授賞式は、2014年度秋季総合分科会の際の9月26日（金）14時50分より、広島大学にて行われました。

受賞者については、「数学通信」第19巻3号の会報155でお知らせいたしました。建部賢弘賞は1999年度より特別賞、奨励賞の2部門となりました。受賞者の方々の紹介として、ご本人からプロフィールを数行書いて頂き、写真と共に掲載しています。

（五十音順、敬称略、所属は受賞時点のものです。）

特別賞

薄葉季路（神戸大 自然助教）

業績の題目： $P_k\lambda$ 組合せ論を中心とする集合論の研究とその応用

数理論理学、特に公理的集合論を研究しています。集合論の研究から生まれた巨大基数公理などのエクストラな公理を仮定し、強制法を用いて特別な無限組み合わせ論的構造を作ることや、そのような構造が位相空間論や実解析などの数学的問題にどのように関わるのかに興味を持っています。お世話になりました方々にこの場を借りましてお礼申し上げます。

塚本真輝（京大理助教）

業績の題目：無限次元モジュライ空間の平均次元

数学とは何なのか、年を取るごとに分からなくなってきました。この文を読まれた方々をお願いします。どうか私に数学を教えてください。これは社交辞令ではありません。

Neal Bez（埼玉大理准教授）

業績の題目：調和解析および偏微分方程式論に現れる様々な不等式に関する研究

私はフーリエ変換の制限定理から得られる不等式、特に Brascamp-Lieb 不等式の非線形の一般化などの幾何不等式に関連する多重線形理論について研究してきました。関連する問題で、最近注目している問題は、分散型・運動輸送方程式に対する space-time 評価です。

奨励賞

猪奥倫左（愛媛大理工助教）

業績の題目：対数型特異性にかかわる偏微分方程式の調和解析的研究

対数型特異性を背後に持つ偏微分方程式について研究しています。最近では臨界 Hardy の不等式とその応用に興味を持っています。この場をお借りして、いつもお世話になっている方々に心よりお礼申し上げます。

大久保俊（東大数理 PD）

業績の題目：剰余体が非完全な局所体の p 進ガロア表現の研究

p 進数体上のガロア表現や、 p 進数体上で定義された微分方程式など、いわゆる局所体上の整数論を研究しています。いままでと同様、これからも自分の興味の赴くままに勉強・研究に励みたいと思います。

田神慶士（東工大博士課程 3 年）

業績の題目：正絡み目判定問題とコバノフ型の絡み目不変量に関する研究

結び目理論を専門にしており、特にコバノフホモロジーと正絡み目について研究してきました。最近では、スライス・リボン予想と正絡み目の関係に興味を持っています。これまでお世話になりました方々にこの場を借りてお礼申し上げます。

中島誠（筑波大数理物質系助教）

業績の題目：ランダム環境中の分枝ランダムウォークの研究

確率論の研究をしています。特に生物の個体数を記述する確率モデルや物理現象を表現する確率モデルに興味があります。また日頃よりお世話になっている方々に深く感謝申し上げます。

疋田辰之（京大理博士課程 3 年）

業績の題目：対角余不変式環の組み合わせ論への新アプローチ

専門は幾何学的表現論で、特にそこに出てくる幾何学的な対象に興味があります。今までは表現論を背景に組み合わせ論や幾何を調べるということをしてきましたが、いつかは表現論に応用があるようなこともしたいと思います。